

ちかひ



浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

謹賀新年



弥陀の本願ふかし
往生はたなごころにあるなり

真実力

平成23年 法然上人八百回大遠忌

◆「元祖法然上人八百回大遠忌ミニポスターより」◆

◆目次◆

- 新春を迎えて
- 誓願寺縁起物語〈第十八話〉
- まんだら絵解き **31** 〈最終回〉
- インド **ダタバタ** 夫婦道中記 ②
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.25 佛光山 寶樹院



新春を迎えて

浄土宗西山深草派管長
総本山誓願寺 法主

井ノ口

泰淳



新年おめでとうございます。

皆様方には、それぞれご健勝にて新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

度々申して居りますように、来る平成二十三年四月には、総本山誓願寺において元祖法然上人八百回大遠忌法要が行われます。平成二十一年は豊川市の立信寺、西尾市の常福寺、吉良町の専長寺、福泉寺、名古屋市の蓮華寺においてお待ち受け法要が修行されました。私もそれぞれの法要に参列し元祖大師の御徳を報謝し、有難いことと感激いたしました。檀信徒の皆様と有り難き法縁を結ばしめ頂きまして嬉しく思います。この五十年に一度の遇い難き法縁に遇いうることをともに喜び度いと願って居ります。

仏教にはたくさんのお教えがあり宗派があります。それらはすべて南無阿弥陀仏のお念仏にこめられているのでございます。

難しい修行をするとか、長いお経を読む必要はありません。誰でも、いつでも、どこでも出来るわけでございます。私達は日々動物や植物の命をいただき、家族や地域、職場などの人々の恩恵によって生かされています。そういう計り知ることのできない様々なご恩を阿弥陀如来様のお慈悲と捉え、南無阿弥陀仏と申しお礼を申し上げております。日々のお暮らしの中で感謝の気持ちのお念仏を心にとめて、お過ごしいただきたいと思います。

平成二十二年 新春

総本山誓願寺 第百二世

彰空泰淳 識

誓願寺縁起物語【第十八話】小島英裕



真阿上人と十念寺

京都に後龜山天皇の皇子がいまして。仏道との縁が深く、皇子は

「教えの道は多くの道に分かれ、どの教えも尊い教えだが、愚かな私には成就しがたい教えばかり。しかし阿弥陀さまの教えは、ただ仏の名号を称えれば、誰でも仏の願力に乗じて往生することができる。どこかの霊場に身を寄せ本尊さまを礼拝しよう」

と思いを巡らしていました。誓願寺は天智天皇の祈願所です。代々の天皇は、感応不思議の阿弥陀さまであると伝え聞き誓願寺に詣でています。応永十七年（一四一〇）の春、皇子は三十六歳になりました。皇子は弟



円光が現れた真阿上人

を誘い参詣の人々の人目を避けて誓願寺へ詣で、二人は髪を落として墨染めの姿となり出家しました。

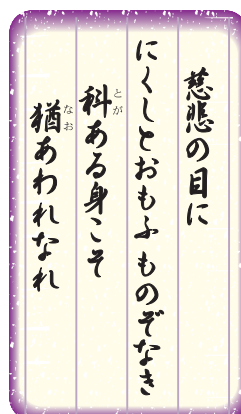
しかし皇子にだけは、まだ法名

が付いていません。その夜、皇子は本堂の傍でまどろんでいました。すると本尊さまが目の前に現れ、「真阿弥陀仏」と告げられ夢から覚めました。皇子は法名を真阿と授けられたのだと喜び、その後、菩提の志は益々増し、称名以外の修行は行いませんでした。

將軍・足利義教は、誓願寺の本尊さまを信仰し時々参詣していましたが、真阿上人を尊び、後の世のことを探ねていました。

ある時、罪人の死刑が執行されようとしていました。そのことを聞いた真阿上人は、義教に許しを請いました。しかし重罪であったため許されることはありません。

真阿上人は、



慈悲の目に

にくしとおもふものぞなき

科ある身こそ

猶あわれなれ

と歌を詠みました。すると真阿上人の頭の後ろに円光が現れました。義教は、円光の不思議を感じ、五体を地に投げ礼拝し、罪人を許しました。

その後はますます真阿上人を敬い、面会のたびに十念を授けていただきました。義教は、誓願寺の境内に一字を建立し、真阿上人はこのお堂に籠り不断念仏を勤行しました。このお堂は、真阿上人よりお十念を授けられ建立されたので「十念寺」と名付けられました。

（つづく）



『当麻曼陀羅』縁起段(見取図50)―西尾市養寿寺所蔵 光覚昌堂上人筆―

まんだら
絵解き
31
《最終回》
文・まんだら同好会
絵・下 千映子

まんだらの由来「縁起段」

まんだらの下の縁、散善義の

ん信仰深い方でした。

中央に、四百十三文字が並んだ
枠があります。これは縁起段と
いつて、この当麻まんだらがで

やがて天平宝字七年(七六三)
六月十五日、髪を落として尼と
なり、当麻寺に参籠されました。
「目の前に生きた仏さまのお姿

きた由来が書かれてい
ます。まんだら絵解きの
最後に、この縁起のお話
をいたしましょう。

を拝見するまで、私はこのお寺
から出ません」と誓われ、一心
に祈られました。

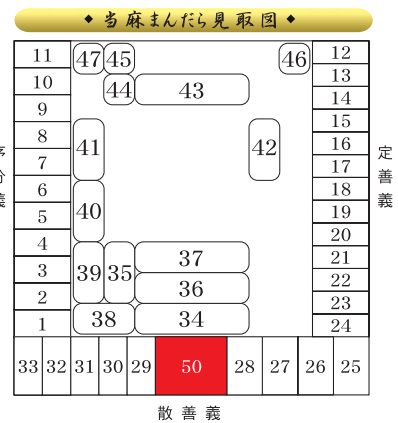
当麻寺は、聖徳太子の
弟、麻呂子親王が奈良の
当麻に建てられた方法
蔵院禅林寺の通称で、修
験道の役行者も修行さ
れたお寺でした。

すると同二十日、一人の比丘
尼(尼僧)が現れました。「私が
その願いをかなえましょう。す
ぐに馬百頭分の蓮の茎を集め
なさい」。これを聞いた中将姫は、
さっそく天皇にお願いし、近江
の国から蓮の茎を取り寄せま
した。

大炊天皇の時代、中将
姫という女性がいらつ
しやいました。中将姫は、
横佩の大臣、藤原豊成公
の娘で、みずから『称讃
浄土経』一千巻を書写し
て奉納するなど、たいへ

比丘尼は、これを受け取ると、
見事な手さばきで茎を折って、
たくさん糸を取り出しました。
そして近くに井戸を掘って糸
を浸すと、みるみるうちに糸は

五色に染まりました。そのすば
らしい光景に、中将姫は涙をこ
ぼさずにはいらませんでした。
同二十三日の夕方、天人のよ
うな雅びやかな女性が現れま
した。比丘尼に「蓮糸の準備は
できていますか？」と尋ね、色
鮮やかな蓮糸を受け取ると、お
堂の北西の隅に機を置き、藁に
灯りをともし、午後十時から
午前二時にかけて、約四メート
ル四方の綴織り観経浄土まん
だらを織り上げました。
完成したまんだらを、節のな
い竹を軸として掛けてみると、
織り上げられた浄土の様子は、





まんだらを織る化女 —鎌倉光明寺本『当麻曼荼羅縁起絵巻』より—

まさしく「光明遍照」、まぶしいほどの輝きです。

すると、機織りの女性はどこへともなく消え、比丘尼は、おもむろにこのまんだらの深い意味合いを絵解きされ始めました。

「南(向かって右)の縁は『観経』の序分、北の縁(向かって左)は精神集中の修行方法、下の縁には九つの来迎、中央は阿弥陀如来の四十八願を実現した浄土

を織りつくしたものの」。

中将姫は、袖をしぼるほどの涙を流しながら、今、浄土にいるような心境でした。

「まさに今、生きた

仏さまのお姿を拝み、極楽浄土を見せていただきました」

すると比丘尼は、「わたしは

西方極楽の教主である。織女は、

わたしの左脇の弟子である」と言うと、西の方へと去ってゆかれました。なんと、比丘尼は阿

弥陀さま、織女は観音さまの化身だったのです。中将姫は感激

の心地さめず、涙が乾くまで延々と見送り続けました。

やがて宝亀六年(七七五)三

月十四日、中将姫は穏やかな往生を迎えられました。紫の雲が

空にたなびき、良い香りがして、

美しい音楽がいつまでも聞こ

えていたそうです。

これが、まんだらがこの世に

出現した由来です。そのきっかけを作られた中将姫は、私たち

にとって往生の先達といえます。その跡を慕って、当麻寺では毎年

五月十四日、姫の往生を再現する二十五菩薩練供養会式が行われています。



奈良県当麻寺の練供養会式

えていました。

これが、まんだらがこの世に

出現した由来です。そのきっかけを作られた中将姫は、私たち

にとって往生の先達といえます。その跡を慕って、当麻寺では毎年

五月十四日、姫の往生を再現する二十五菩薩練供養会式が行われています。

十年間にわたって本誌に連載

してまいりました「まんだら絵

解き」は、今回が最終回となります。長らくのご愛読、ありがとうございます。

ございました。(まんだら同好会)

雲にのり、はるかかなたへひ

とつ飛び、世界のはてまで行っ

てきたつもりの孫悟空ですが、

実際はお釈迦さまの手の上でう

ろうろしていたにすぎなかった、

◆表紙の解説◆

弥陀の本願ふかし

往生はたなごころに

あるなり

雲にのり、はるかかなたへひとつ飛び、世界のはてまで行ってきたつもりの孫悟空ですが、実際はお釈迦さまの手の上でうろうろしていたにすぎなかった、というお話はごぞんじですね。

仏さまの手のひらはどこまでもひろがっている雲のようです。

阿弥陀さまはその広い手の内に、すべての人々をとりこんで、も

れなく慈悲の光をなげかけてくださっています。

私たちは、時には幸運にめぐ

まれて得意の絶頂に立ち、時には不運にみまわれて失意のどん

底に沈みます。

みなさん方は幸運にさいして

も、また不運にさいしても、その

かげにはたらいっている阿弥陀さ

まのやさしさを感ずることがあ

りませんか。



カジュラホーを後に：：

ホテルに帰ると、頼んでおいたコース変更のための列車のチケットが渡され、追加料金として一、〇〇〇ルピー(約二、五〇〇円)を支払った。そのついでに、おまけとしては気が進まなかったのだが、運転手から時々言われていたチップを、五〇ドル(約五、七五〇円)渡した。ルピーなら安いのだが、ドルとなると高すぎるチップである。

部屋に戻り、持参した携帯湯わかし器に水道水を入れてプラグを差し込んだところ、パチンと音がして停電になってしまったのである。日本を出る少し前に買ってインドに来て二回くらいしか使っていないのに、もう壊れてしまったのだ。お陰でペットボトルのミネラル・ウォーターを買わざるを得なくなってしまったのである。

湯の出るシャワーを浴び少し休憩した後、昼間にパルシュ君と約束し

ていた宴会を、運転手も誘って屋上に上がり夕涼みしながら始めた。昼間の暑さも和らぎ満天の星を眺めながらの宴は最高だった。割高なビールは最初の一本だけにして、ウィスキーのボトルを一本、皆で飲み干してその日は終わった。

翌朝、僕は日の出と共に目が覚めたので、屋上に上がりカジュラホーの小さな町の静かな風景をカメラに納めた。ホテルを出て辺りを散歩しようとしたら、日本語を話せるもう一人の従業員と会ったので、二人でふらりと歩き回った。

朝食もとらずカジュラホーを後に、次の目的地アジャンタに行くのに都合の良い駅、ジャンシーに向かった。パルシュ君が所用で数十キロ離れた途中の町まで同行し、退屈さを紛らわしてくれた。彼を降ろしてから途中、ノーガオンという片田舎のレストランで朝食をとり、店にはその州の地図が置いてあったので、つ

いでに買い求めた。広い国土なので州ごとの地図があれば便利だと思っていただけに、タイミング良く手に入れる事ができたのである。

ジャンシー駅に向け車はひたすら走り、途中、オールチャーという小さな町に立ち寄った。日本で言う門前町の様な雰囲気の中で、賑やかな通りを横切り、川のほとりまで来て車を降り、廃寺になった様なヒンドゥー寺院をいくつか見て歩き、子供たちが水辺で遊ぶのを暫く眺めてから車に戻った。



— ホテル屋上から見た朝の風景(カジュラホー) —

総本山誓願寺だより

平成二十一年秋から誓願寺会館にて、『誓願寺新京極文化セミナー』と題し、文化講座を開いております。その開講記念講演として平成二十一年十月十四日(水)総本山誓願寺本堂にて、『誓願寺新京極文化セミナー 記念講演』を開催致しました。

講師に熊谷直実研究家、ミュージカルプロデューサー 熊谷かおり氏、哲学者 梅原猛氏をお招きしました。熊谷かおり氏からは「熊谷直実と法然上人の武勇と信仰」、梅原猛氏からは「法然と親鸞」と題した講演を頂きました。

今後の『誓願寺新京極文化セミナー』予定

◆ 第一回：一月二十四日(日)

「現代を生きる力としての仏教」

◆ 第二回：二月七日(日)

「認知症高齢者から学ぶ仏教」

◆ 第三回：二月二十八日(日)

「自分だけの異界への入り口」

「仏像入門」

◆ 第四回：三月七日(日)

「宗教と芸能の関係ー仏教と落語」

講師：釈 徹宗(しゃく てっしゅう)氏。
(一九六一年、大阪府生まれ。兵庫大学教授。浄土真宗本願寺派如来寺住職。NPO法人リライフ代表。)



梅原猛氏の講演

○ 受講料 一回五〇〇円 (資料代含む)

○ 受付 午後二時より

○ 講演 午後二時三〇分～午後四時 (九〇分)

お申込み・お問い合わせ

電話 〇七五―二二―〇九五八
FAX 〇七五―二二―〇一〇九
E-mail seiganji@skyblue.ocn.ne.jp

※お申し込みは、お電話またはメールにてお願い致します。



おもな行事予定

一月

● 十五日(木)

六阿弥陀功德日

● 二十四日(土)

法然上人追慕念仏行脚

二月

● 三日(火)

節分会

● 八日(日)

六阿弥陀功德日

三月

● 十四日(土)

善導忌

六阿弥陀功德日

● 十七日(火)～二十三日(月)

春彼岸

クイズコーナー

【問題】

当麻寺に参籠し、まんだら出現のきつかけになった女性は誰でしょう？
(漢字3文字)

〇〇 姫

官製はがきに、答えと郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。
今回は管長猊下御染筆の色紙を一名、宝樹院さまより「観音様のお守り」を十名、本山謹製線香を五名の方に、合計十六名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒四四四三三三

岡崎市藤川町字中町南十五番地
稱名寺内 ちかい編集係

【締切】

一月三十日
(消印有効)

答え 〇〇
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

ちかい 第127号

発行日 平成二十二年一月一日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二―〇九五八
FAX (〇七五) 二二―〇一〇九
E-mail seiganji@skyblue.ocn.ne.jp

何でも

お寺探偵団

寶樹院

Vol.25



掛埜 乃賢 師 寶樹院
(かけの だいけん) 第22世住職
昭和32年生まれ、52歳。平成15年より寶樹院
住職となる。
趣味は車と、スキューバダイビング。

今回は、愛知県知多郡の「佛光山
寶樹院」を訪れました。

Q1 お寺の由来を
教えてください。

戦国時代に、一時内海地方に君
臨していた内海城主、佐治備中守
為綱が、亡き母の供養の為に創建
したと言われています。

寶樹院の由来はこの母の戒名「寶
樹院照光寿臨大姉」の院号から名
付けられました。

室町後期、元龜二年(一五七一年)
に創建されましたが、江戸時代後
期、安政元年(一八五四)十二月
に本堂が全焼し、二年後の安政三
年に本堂が再建されました。

現在は山号を「佛光山」といいま
すが、昔は周りを松林にかこまれ
た静寂の境地であったため、当初
は「松林山」と名付けられていまし
た。周囲の数多くの松は、伊勢湾台
風でほとんど倒れてしまいました。

Q2 お寺にはどんなものが
ありますか？

毎年、春と秋のお彼岸にのみ
開帳する秘仏聖観音菩薩があり
ます。また、四国直伝弘法大師尾
張八十八ヶ所霊場の五十二番札
所でもあります。

また、お寺とは少し異なりま
すが、お寺の庫裏で、整体院佛心
館という整体ツボ施術院をして
おります。



▲本堂



▲聖観音

Q3 座右の銘を
教えてください。

「今今と 今という間に今は無
し 今という間に 今は過ぎ行く」
ですね。仏教で言えば無常と言う
事ですが、今という時は本当に一
瞬で過ぎ去ってしまいます。いつ
もその時々、「今」を大切に生活を
していきたいと思っています。

Q4 「ちかい」の読者に
何かいただけませんか？

観音様のお守りを十名さまに
差し上げます。



▲山門と石碑



▲内海城主の母の位牌

【主な行事】

- 2月 涅槃会
- 3月 春彼岸会
- 4月 降誕会
- 7月 盆施餓鬼会
- 9月 秋彼岸会
- 10月 十夜法要

【お問い合わせ】

寶樹院
〒470-3321
愛知県知多郡南知多町
大字内海字寺後23
0569-62-0134